



SUSTAINABLE REPORT 2021

▼ WEBサイト



〒812-0016

福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号

TEL : 092-432-8507 / FAX : 092-432-8508



株式会社 Green prop

INDEX

目次/編集方針/会社概要	1
トップメッセージ	2
Green propの理念	3
事業案内	5
CSR方針	9
KPI	11
CSR重点項目1:安全・安心	13
CSR重点項目2:人財	15
CSR重点項目3:資源循環	17
CSR重点項目4:パートナーシップ	19
環境データ	21

編集方針

報告対象組織

株式会社Green prop

報告対象期間

2019年7月～2020年6月
(※一部対象期間外を含む)

発行時期

2021年5月

参考ガイドライン

環境報告ガイドライン(2018年版)
エコアクション21ガイドライン(2017年版)
SDGコンパス

お問い合わせ先

株式会社Green prop 担当:丸山
〒812-0016
福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号
フリーダイヤル:0120-52-0589
E-Mail:info@greenprop.jp

TOP MESSAGE

新たな事業形態でリスタート

2019年度は事業形態を変更し、新たな事業スタイルでリスタートした1年でした。廃棄物事業は収集運搬を中心に、様々な協力会社様とのパートナーシップで適正処理やリサイクル、廃棄物管理のご提案を行い、大変ありがたいことに取引お客様数の増加に繋がりました。また、CSR経営サポートも昨今のサステナビリティ概念の普及に伴い、サービス内容の深化を図ることができ、新たな環境でのマーケティングと事業推進を行って参りました。

同時にCSRもリスタートし、事業形態に合わせた様々な影響に対応するための計画で進めて参りました。目標に対して達成したものとできなかったもの、そして結果分析から未達要因が明確になりました。最初のPDCAサイクルが終了し、改善にスポットを当てた2年目のCSR推進を思案しておりました。

社会の変化とサステナビリティ

そんな中、2020年2月頃より国内でも蔓延した新型コロナウイルス感染症は、私たちの生きる社会を一変させました。今まで当たり前であった、人と人が「会う」という常識が非常識になり、飲食店のデリバリー普及やインターネットでの購買激増、リモートワークやオンライン会議ツールを活用した働き方など、非対面による社会の構築が急速に進みました。

しかし、私たちの廃棄物事業は完全に非対面にはなりません。ドライバーがお客様のもとに向かい廃棄物を回収し、処分場に運搬して荷下ろしし、処分会社様で廃棄物に手を加えることで適正に処理されていきます。もし、私たちが回収に伺えなかったら、社会に廃棄物が溢れ公衆衛生に支障をきたします。廃棄物処理は止めることができない、社会インフラの一端を担っていることを改めて認識しました。

この社会の変化に対応することこそがCSRであり、CSRが企業と社会のサステナビリティに繋がることも身を持って実感いたしました。

ウィズコロナでのCSR

社会が変われば、当社の事業で与える様々な影響の種類やその大きさ、そしてステークホルダーの皆様からの期待や要望にも変化があります。今回の報告対象期間外になりますが、2020年7月度から、今一度ウィズコロナでのCSRリニューアルを進めております。

今回のリニューアルに関しては、今まで経営層や担当部署にて思案し構築を進めてきたCSRを、各部門のリーダーが集まって協議し、みんなでつくりあげるプロセスをとっております。社会の変化を社員全員が目当たりし、これからはより社員一人ひとりのサステナビリティ意識の醸成がさらに必要であると感じました。とことん議論を重ね、現場の声を十二分に反映したCSR方針・KPIができつつあります。完成しましたら皆様にも改めて報告させていただきます。

パートナーシップでより良い社会へ

新しい社会の中でどう持続可能性を高めていくか、これからが本当のスタートだと考えています。それには、やはり当社だけではなく、ステークホルダーをはじめとした皆様と共に目指していくことも必要不可欠です。

改めて経営戦略と密接なCSRを推進し、当社のサステナビリティの向上と、より皆様とのパートナーシップを強めより良い社会の構築に邁進して参ります。

CSRで 社会の変化に対応し 企業と社会を サステナブルに。

株式会社Green prop 代表取締役

丸山 孝子



OUTLINE

商号	株式会社Green prop	拠点	本社
代表者	川添 克子		福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号
設立	1985年		物流本部 福岡県筑紫野市大字永岡1315番地-10
資本金	2,000万円		中国支店 広島県大竹市北栄4-12
従業員数	34名(2021年5月現在)		東京営業所 東京都中央区日本橋兜町5-1 兜町第1平和ビル3階
グループ会社	株式会社ATGREEN Sustaina green株式会社		大牟田出張所 福岡県大牟田市健老町472番地 大牟田エコタウン内

For Sustainable Tomorrows.

持続可能な未来のために

私たちGreen propグループは
持続可能な未来環境を共創するアライアンスパートナーです。

自然と社会の美しい連鎖と循環を生み出すために
企業はもちろん、自治体、NPO法人、福祉法人など
あらゆる分野の組織体と提携し
人と人、人と社会、人と自然がもっと豊かに通じ合う未来を
パートナーと共に創りあげていきます。

For Sustainable Tomorrowsー持続可能な未来のために。
私たちが展開する事業は、すべてこの一点に帰着します。
その実現を自らのミッションと定め、胸に刻み
前進し続けることを、私たちはここに誓います。

ACTION GUIDES

1. 未来から今を見つめる。

現在の価値観にとらわれるのではなく、たとえば「50年後、100年後の人々なら、どう考えるだろう」という未来からの視点で物事を考え、プランニングします。
私たちは時代の半歩先を見つめ、決して変化を恐れません。

3. 走りながら考える。

仕事を進める上ではスピードを重視します。危険なのは最適解を追い求めるあまり、最初の一步を踏み出さないこと。行動が先。
私たちは常に走りながら新たな情報を取り込み、修正し、結果として最高のソリューションを提供します。

5. 人の役に立つことを喜びとする。

お客様、ともに働く社員、取引先、協力企業、同じ地域社会で暮らす人々など、目の前の人のお役に立てたとき、それが私たちにとって何ものにも代えがたい喜びです。
常に「その人のために自分ができる最大のことは何か」を考えます。

7. 「儲かりそうだから」では動かない。

業務を継続していく上で、一定の利益は必要です。ただし、「儲かるから」という理由では絶対に動きません。「持続可能な未来のために」というビジョンに沿った事業のみに絞り込み、私たちはその実現に向けてすべての力を注ぎます。

9. 常に地球環境を意識する。

私たちは業務を通じて地球環境の改善に貢献します。行動するときは必ず「地球環境の改善につながるか」と自問し、プラスになることだけに注力します。
その小さな営みが、地域に、日本に、そして世界に広がることを信じます。

2. お客様を徹底的に知る。

私たちが最も心を注ぐべきは取引を継続して下さっているお客様です。どうすればお役に立てるのか。自分の考えはいったん脇に置き、相手の話をよく聴いて現状を把握すること。あざやかな問題解決はその先にあるのです。

4. 今日笑顔の花を咲かせる。

私たちの大きな特長、それは「よく笑う」こと。社内でも取引先でも、いつも笑顔で、仕事を乐しみます。壁にぶつかっても笑顔で乗り越え、肩を落としている人がいたら、笑顔で励まします。
笑顔は私たちのトレードマークです。

6. 相手のそのまを受け入れる。

人の長所をうらやんだり、短所を批判したりせず、そのまの相手を受容します。互いの違いを認め、尊重し、苦手を補いあい、良い部分が活かせる環境づくりのための工夫を続けます。私たちは様々な才能の集合体なのです。

8. 会話の終わりに「ありがとう」。

お客様にサービスが提供できるのは、社員だけでなく、協力会社を含めた仲間の存在があってこそです。お客様への感謝はもちろん、ともに働く人たちとのちょっとした会話の中でも必ず「ありがとう」の一声を掛け合います。

10. 「愛」を育み続ける。

すべての根底にあるのは「愛」。私たちは愛の心を日々、大切に育み、大きくしています。そして、その愛を惜しみなく捧げることで、さらに大きな愛を手に入れます。
この愛のプラススパイラルこそが私たちの仕事の本質です。



廃棄物事業

廃棄物に関するあらゆるお困りごとを解決

事業活動が続ける限り、廃棄物は必ず発生するものです。私たちGreen propは「持続可能な廃棄物処理」を追い続けています。

当社での廃棄物収集運搬はもちろんのこと、お客様の要望から「真の課題」を見つけ、その課題解決をサポートいたします。

廃棄物管理ワンストップサービス

「廃棄物管理」と一言にいても、適正処理やリサイクル方法、業者選定、配車、マニフェストの実績管理など、その業務内容は多種多様です。その複雑な廃棄物管理をすべて一括でお任せいただけるのが、Green propの廃棄物管理ワンストップサービスです。

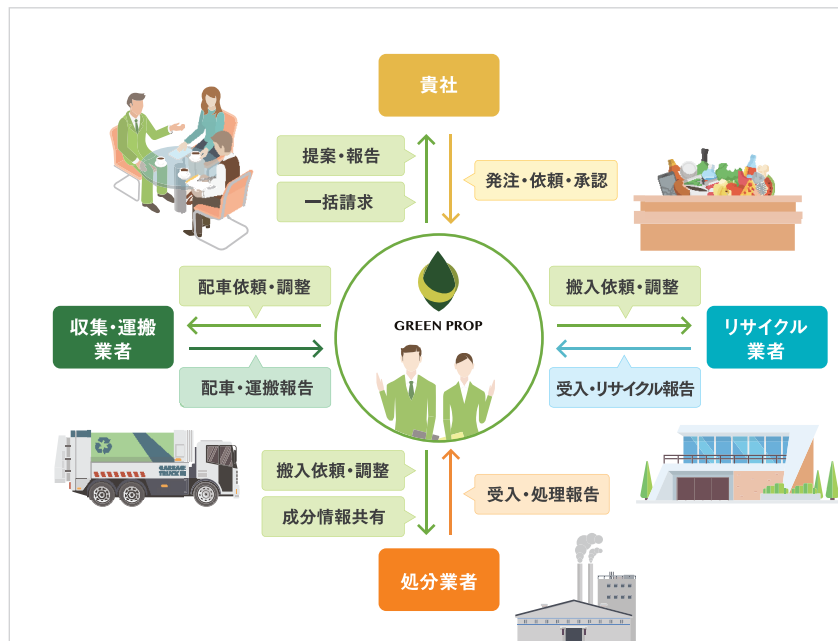
まるで貴社の廃棄物担当の一員として、貴社独自の「最適な廃棄物処理」の方法を構築します。

こんなメリットがあります

- 01 累計約1,000社以上かつ全国ネットワークで知識も実績も豊富
- 02 法律にも精通しておりリスクマネジメントができる
- 03 リサイクルにこだわった提案が可能
- 04 窓口が一つになりご担当者様の業務負荷が低減

サービス詳細（一部）

基本サービス	業者選定
	委託先信用実績確認
	委託契約書準備
	法的手続き書類準備
	配車調整
	マニフェスト管理
	請求一括管理
	実務相談
	運用サポート など
	廃棄物分析手配
オプションサービス	アスベスト等工事請負・業者手配
	廃棄物分別・運用指導
	現地確認代行・同行
	担当者研修の開催
	電子マニフェスト移行サポート 行政報告書作成支援 など



廃棄物の収集運搬

九州全域はもちろん、山口、広島、鳥取、島根エリアの収集運搬も可能です。多様な品目に対応するために、多様な車両を配備し、お客様のご要望にお応えします。

さらに自社車両運行に関するCO₂排出量を全量カーボン・オフセットするため、収集運搬でのCO₂排出量は実質ゼロとなります。

こんなメリットがあります

- 01 広域の収集運搬が1社で可能
- 02 多様な品目を運搬できる車両を配備
- 03 CO₂排出量実質ゼロで環境活動に貢献

保有車種・台数（2021年5月現在）

計36台

トレーラー	・・・	1台	4t平ボディ車	・・・	1台
ジェットバック車	・・・	11台	4tユニック車	・・・	1台
13tウイング車	・・・	2台	4tパッカー車	・・・	1台
10tローリー車	・・・	1台	2t冷凍冷蔵車	・・・	1台
10tダンプ車	・・・	2台	2tパワーゲート車	・・・	1台
10tアームロール車	・・・	3台	ハイエース	・・・	1台
7tヒアブ車	・・・	1台	乗用車	・・・	7台
7tアームロール車	・・・	2台			



廃棄物の資源循環化サービス

廃棄物という概念のない、100%資源循環型社会へ向けて、現在の運用方法の見直しや新しい資源循環フローの構築までトータルでサポートいたします。

各企業の事業内容やお悩みに合わせて、一つ一つオーダーメイドでのご提案をさせていただきます。

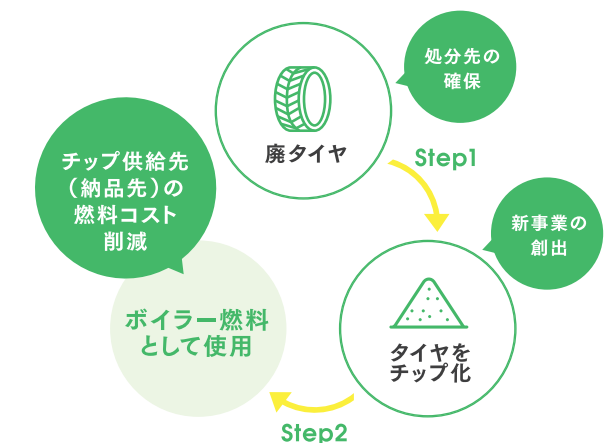
こんなメリットがあります

- 01 豊富な知識と経験で最適なご提案を実施
- 02 リサイクル法等にも精通しておりリスクマネジメントにも貢献
- 03 リサイクル製品の流通まで考えてご提案

資源循環事例

廃タイヤの再資源化

以前の対応	使い古したタイヤの処分先が見つからず困っていた。
弊社からの提案	タイヤをチップ化する機械を導入し、ボイラーの燃料として使用される納品先までを手配。
結果	タイヤを処分することなく再資源化に成功。処理会社には新しいサービスが誕生し、ボイラー燃料のコスト削減も叶えた。



資源循環実績数 約120品目（リサイクルフローを構築した廃棄物の名称を当社算定）



CSR経営 サポート

「CSR経営」に取り組む企業のベストパートナー

Green propは30年以上、私たち自身がCSR経営を実践してきました。また、まだ社会事業という言葉もない時代から環境事業を行っており、その中で得た経験や実績を元にして、「世のため、人のため」の経営にシフトしたい企業や組織のリデザインをサポートしていきます。

CSR経営を行うメリット



組織力の強化と経営の安定化

CSR方針を明確にすることは、従業員への企業ビジョンの再確認や周知・浸透にも効果があります。CSRによる従業員の意識改革は企業全体の成長にもつながり、結果的に経営の安定化へとつながっていきます。



コンプライアンス体制の強化

コンプライアンスとは法令遵守と訳されることが多いですが、法令だけでなく企業が社会的責任を果たすことなども含まれています。そのため、CSRを策定し、発信していくことはコンプライアンスの遵守にもつながっていきます。



ステークホルダーの満足度向上

CSRの対象は、株主、取引先、従業員はもちろんのこと、地域住民など、企業が関係するステークホルダー（利害関係者）全てです。企業として、「どのように社会的課題に向き合い、解決を図っていくか」を発信することは、顧客満足度の向上だけでなく、ステークホルダー全体の満足度の向上に繋がっていきます。



企業価値・ブランドイメージの向上

CSRへの取り組みは、企業価値や企業ブランドイメージの向上にも繋がります。企業の地域社会への貢献をCSR活動報告として公開することで、企業の社会的存在の価値を証明し、企業ブランドのイメージを向上させ、競合他社と差別化も期待できます。

STEP1 戦略 CSRコンサルティング

CSR経営を行っていくには、最初にしっかりとしたCSR方針やCSR目標・計画の策定を行い、その後にCSR推進体制の構築・強化が重要です。様々な業界に精通した経験豊富な専門スタッフが貴社のCSR基盤づくりを支援します。

- ビジョン・ブランドコンセプトの整理
- CSR方針とKPIの策定
- CSRマネジメント体制の整備
- 活動実施サポート



STEP2 体制構築 環境・CSR教育

CSRを実践していくのは、実際に働く社員一人ひとりです。CSRとは何か?という基礎教育から、社員の方々に牽引する推進者向け教育、その他必要なテーマに合わせた教育などのCSRカリキュラムを組み、社内でCSRが実践されていく基礎づくりをサポートします。

- CSR基礎教育
- CSR推進者向け教育
- 各テーマ別教育



STEP3 レポート CSRレポートの企画・制作

CSR経営では、企業の取り組みをいかにステークホルダーに伝え、評価を得るかが重要です。「何を、誰に、どうやって伝えるか?」「どのように評価の声を得るか?」の最適な提案を行い、適切なコミュニケーションプランとメディア活用による、「伝わるCSR」をサポートします。

- ターゲットの選定
- コンテンツの選定
- メディアの選定(CSRレポート/Webサイト/SNS)
- フィードバック手段の選定

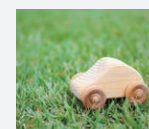


その他



省エネ設備導入

LED照明導入等による省エネを実現します。



カーボンクレジット

CO₂の排出について、自分たちでは削減できない部分を、他の場所での排出削減・吸収量によって埋め合わせ(オフセット)します。また、排出権クレジットの創出もサポートします。



ライフサイクルアセスメント

製品やサービスの原料調達から製造、流通、使用、廃棄に至る一生での環境に対する影響を定量的に評価します。

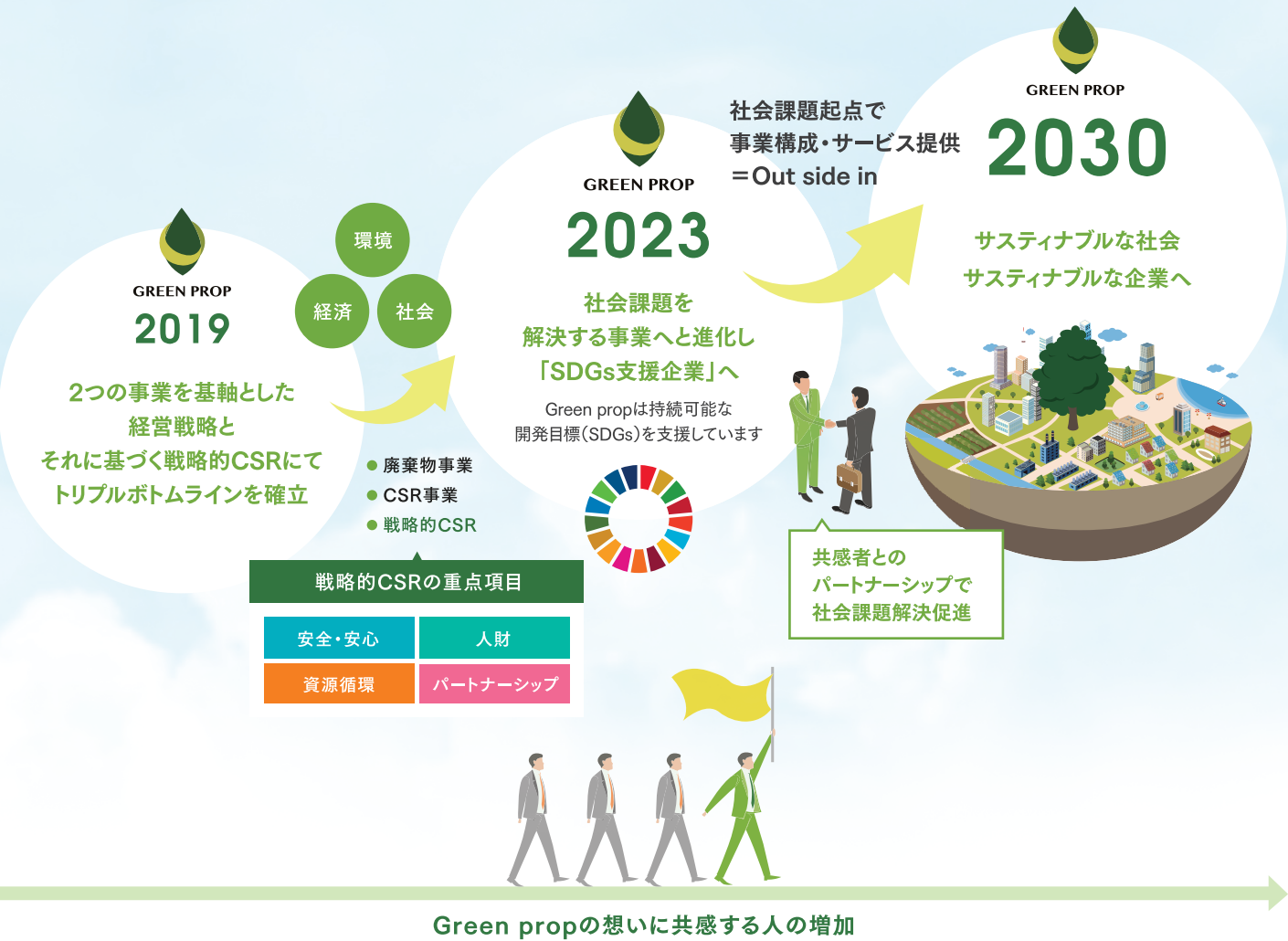


環境ラベリング

エコリーフ、カーボン・フットプリントの認定、手続きなどをサポートします。

Green prop Sustainable Way to 2030

サステナブルな社会実現に向けて、Green propは環境・CSR分野から社会課題を解決する企業へと進化する
中長期経営計画を2018年に策定し、2019年に見直しを行いました。
当社のCSRは、経営計画達成に向けた重要な経営戦略の1つとして据え、重点項目を設定しました。
事業活動と密接な戦略的CSRを推進し、サステナブルな社会を実現していきます。





























CSRマネジメント体制



CSR重点項目

ステークホルダーのニーズと事業活動に伴い発生する影響、Green propを取り巻く環境から関連する社会課題を捉え、4つの重点項目でCSR・CSV活動を推進していきます。

CSR重点項目	関連するSDGsGOAL	関連する優先課題 (マテリアリティ)
安全・安心 コンプライアンス順守を大前提に、安全な職場環境の確保と健全な組織運営を行い、安心を創造します。		コンプライアンス
		業務上の安全性
		安全・防災の推進
		従業員の健康・安全・福祉
人財 人を尊重し、人を愛し、人と共によりよい社会を形成できるよう、人財育成とダイバーシティ&インクルージョンを推進します。		人材確保と育成
		ダイバーシティ、インクルージョン
		環境教育
資源循環 限りある資源の調達から使用、廃棄までのライフサイクル視点で考え、環境負荷の少ない運営と資源循環の可能性を実現する循環型社会の形成を目指します。		環境負荷の低減
		温室効果ガスの排出削減
		資源とエネルギー
		廃棄物処理が環境へ与える影響
		事業を通じた環境問題解決への貢献
		革新的な廃棄物管理システム
パートナーシップ すべての活動は様々なステークホルダーの皆様とのパートナーシップにより実行できます。より強固なパートナーシップ構築を行い、サステナブルな社会を目指します。		ステークホルダーに対するエンゲージメント
		持続可能な社会への貢献
		顧客満足

CSR重点項目	取組テーマ	関連SDGs	KPI	対象範囲	EA21	活動内容	担当部署	35期目標	35期結果	評価	36期目標	37期目標	38期目標
<div> 安全・安心</div>	コンプライアンス遵守 ※社員の働きやすい・働きがいのある職場環境の形成	 16.5 16.7	社内規範違反及び法令違反件数	全体	—	1.役員が参加した部署間連携確認会議の定期開催 2.廃棄物関連法規に関する勉強会やテストの実施 3.関連資格取得の促進 4.関連法規および社内規範の遵守状況定期確認 5.クラウドシステム導入による情報の透明化と発信	CSR推進室 CS業務課 未来デザイン室 新業態開発室	0回	9回	△	0回	0回	0回
			情報取扱における規範の整備	全体	—	1.プライバシーマークの取得検討 2.その他必要規範について検討 3.規範の整備・実行	新業態開発室	—	—	—	取得準備	取得	運用継続・改善
	安全な職場環境の形成	 3.6 3.9	労働災害発生件数	全体	—	1.ヒヤリハットの共有と予防措置の実施 2.デジタコ・ドラレコによる運転評価と指導 3.外部講師による安全運転講習の実施 4.営業車両整備ルールの策定と点検実施 5.作業手順書の作成と運用	CS業務課 経理・総務部	0回	1回	△	0回	0回	0回
			ドライブレコーダー平均点数	収集運搬部門	○	1.デジタコ・ドラレコによる運転評価と指導 2.外部講師による安全運転講習の実施 3.「エコドライブ10のすすめ」を推進 4.年に1回、成績優秀者を表彰	CS業務課	72点	74点	○	75点	76点	77点
	防災体制の構築	 13.1	防災訓練回数	全体	—	1.緊急事態のルール・マニュアルの整備 2.各拠点にて防災訓練・実習の実施	経理・総務部 CS業務課	3回	1回	△	3回	3回	3回
			BCP(事業継続計画)の策定	全体	—	1.BCP策定に向けた情報収集 2.BCP策定 3.BCP策定後の検証と見直し	CS部	BCP策定の計画	活動未実施	×	BCP策定準備	BCP策定	BCP定着に向けたトレーニング
	社員の働きやすい職場環境の形成	 8.2	有給取得率	全体	—	1.半日有給制度の導入 2.有給取得状況の周知と取得促進のための声掛け 3.業務レベル均等化のための業務マニュアル作成	経理・総務部	有給取得率の把握	把握完了	○	有給取得率70%	有給取得率70%	有給取得率70%
			リモートワークの環境整備	全体	—	1.備品等、物理的環境整備 2.サーバーのクラウド化等ソフト環境の整備 3.Web環境の整備 4.業務帳票などのペーパーレス化推進 5.社内ルールの策定	経理・総務部	制度準備	制度準備一部完了	○	制度準備	制度策定	運用・制度改善
			福利厚生制度の取得率	全体	—	1.現制度の整理と社内啓発 2.制度内容検討のための委員会等設置 3.制度内容検討と取得率把握 4.各項目の目標取得率設定	未来デザイン室 経理・総務部	現制度の整理	整理一部完了	△	制度内容検討と取得率把握	取得率向上(前年比)	取得率向上(前年比)
<div> 人財</div>	未来創造型人財育成と適正評価 ※働きやすい・働きがいのある職場環境の形成	 4.4  5.5  8.5	社員教育のための研修・テストの導入	全体	—	1.来客対応の基本教育と定期テストの実施 2.専門知識向上のためのテストの企画 3.テスト実施体制の構築 4.テスト実施し改善実行	経理・総務部 未来デザイン室	教育体制企画	企画完了一部実行	○	—	—	—
			公正な人事評価制度の導入	全体	—	1.公正な評価のための人事評価制度構築 2.人事評価制度の公正な運用	経理・総務部	制度完成	制度完成	○	運用開始と課題抽出	運用継続制度改善	運用継続制度改善
			未来創造型人財育成のための教育制度の企画	全体	—	1.経営情報等の社内共有 2.教育体制など基盤の整備 3.クレドの浸透促進 4.未来創造型人財の育成	未来デザイン室	教育体制企画	企画完了	○	教育計画実施と評価	教育計画実施と評価	教育計画実施と評価
	ダイバーシティ&インクルージョン	 5.c  10.2	EG(エマジェネティクス)の導入と活用	全体	—	1.EGテストの実施 2.EGを活用するための制度企画 3.EGを活用した企業運営	未来デザイン室	EGの活用方法を企画	企画完了	○	EGを活用した教育導入	EGを活用した教育定着	EGを活用した教育定着
			多様性の尊重	全体	—	1.障がい者の活躍支援 2.車いす用トイレ等設備の設置	経理・総務部 未来デザイン室	—	—	—	取組2件	取組2件	取組2件
	[CSV]CSR・環境教育	 4.7  12.8	CSR・環境教育等実施回数	全体	○	1.CSR検定勉強会等主催セミナーの開催 2.ステークホルダーからの依頼等によるCSR・環境分野の講演実施 3.本社スペースの地域開放に向けた準備	未来デザイン室 営業部 CS部	4回	8回	○	10回	12回	14回
<div> 資源循環</div>	環境負荷の低減(社内)	 7.2  12.2	売上当たり電力消費量	全体	○	1.クールビズ・ウォームビズの推進 2.空調の温度設定の適正化と使用していない部屋の空調の停止徹底 3.空調機の定期清掃など適正管理による省エネ対策 4.OA機器を省電力設定にし、PC使用後は電源を切る 5.照明節電の実施	経理・総務部	33期比1%削減	70%削減	○	35期比1%削減	35期比2%削減	35期比3%削減
			売上当たり化石燃料使用量(ガソリン、軽油)	全体	○	1.デジタコ・ドラレコによる評価と運転指導 2.「エコドライブ10のすすめ」を推進 3.収集運搬車両の定期車両整備 4.営業車及び収集運搬車両の低燃費・低排ガス車導入	CS業務課 経理・総務部	33期比1%削減	12%増加	△	35期比1%削減	35期比2%削減	35期比3%削減
			水使用量	全体	○	1.節水ポスターの掲示	CS業務課/経理・総務部	33期比1%削減	54%削減	○	35期比1%削減	35期比2%削減	35期比3%削減
			売上あたりCO ₂ 排出量	全体	○	1.電力消費量削減に向けた取組みの実施 2.化石燃料使用量削減に向けた取組みの実施	CS業務課 経理・総務部	33期比1%削減	1%削減	○	35期比1%削減	35期比2%削減	35期比3%削減
			グリーン購入適合製品比率	全体	○	1.文房具購入の際にグリーン購入製品の導入検討 2.5S活動推進による適正な備品使用の実施	経理・総務部	事務用品において購入実施	購入実施33%	○	34%	35%	36%
	廃棄物排出量の低減(社内)	 11.6  12.3 12.5 12.6  14.1	一般廃棄物排出量	全体	○	1.封筒、クリアファイル、コピー紙の再利用促進 2.分別ボックス設置による分別の徹底 3.5S活動のルール策定 4.5S活動の実施による無駄な購入等の削減 5.電子化によるペーパーレスの検討	未来デザイン室 経理・総務部 新業態開発室	33期比1%削減	18%増加	△	35期比1%削減	35期比2%削減	35期比3%削減
	社会の資源循環率向上(サービス)	 9.4  11.6  12.4 12.5 12.6  14.1	取引におけるリサイクル率	全体	—	1.リサイクル率算定方法の整備 2.リサイクル率の把握 3.リサイクル率の高い処理フローの提案	CS管理課 営業部	算定方法の整備	整備未完	△	現状のリサイクル率把握	リサイクル率向上(前年比)	リサイクル率向上(前年比)
	[CSV]適正な廃棄物管理体制の構築(サービス)	 12.4,12.5,12.6	クラウドシステムを用いた新サービス構築	全体	—	1.お客様マイページの作成 2.運用におけるお客様とのコミュニケーションでニーズ収集 3.マイページ各機能のブラッシュアップと新機能追加	新業態開発室	マイページの基盤構築	基盤構築未完	△	マイページサービス整備完了	サービスの拡大	サービスの改善
<div> パートナーシップ</div>	社員とのパートナーシップ ※働きやすい職場環境の形成 お客様とのパートナーシップ	 17.16,17.17	集会・行事開催回数	全体	—	1.組織情報の社内共有に向けた全社集会の定期開催 2.レクリエーション行事の開催	未来デザイン室	5回	4回	○	5回	5回	5回
			ヒアリング先企業数	営業部/CS部	—	1.ヒアリングシートを活用したコミュニケーション	営業部/CS部	150件	166件	○	170件	200件	220件
	協力会社とのパートナーシップ		協力会社とのコミュニケーション回数	営業部/CS部 未来デザイン室	—	1.年1回以上の定期訪問の実施 2.市場情報の共有	営業部/CS部 未来デザイン室	20回	102回	○	40回	50回	60回
	地域・社会とのパートナーシップ		地域・社会とのコミュニケーション回数	全体	—	1.本社スペースの地域開放に向けた準備 2.イベントの企画・運営 3.地域清掃の実施 4.CSR・環境分野のセミナー・講演実施 5.社会福祉法人等からの調達	未来デザイン室 経理・総務部	5回	4回	△	5回	5回	5回



重点項目1



安全・安心

コンプライアンス遵守を大前提に

安全な職場環境の確保と健全な組織運営を行い安心を創造します。

TOPICS

新型コロナウイルス対策

2020年2月頃より日本でも蔓延した新型コロナウイルス感染症について、当社でも様々な対策を施しております。

廃棄物処理は社会インフラの一端を担っており、公衆衛生を確保するためにも止めることはできません。収集運搬の現場、事務所の運営など組織運営の全場面において対策を考え、実施しました。

この感染症対策は新しい常識として定着させ、引き続き安全第一の運営を行って参ります。



物流本部 事務所

実施している対策

- 社員のマスク着用
- 社員の検温(出社時、ドライバーは出社時+帰社時)
- 出社・帰社時の手洗い・アルコール消毒の徹底
- 事務所内のアクリル板設置
- 事務所内の定期的な換気実施
- 事務所内のソーシャルディスタンス確保
- リモートワーク奨励
- オンライン会議・商談等の実施
- 業務車両の車内消毒の実施
- 衛生用品の備蓄

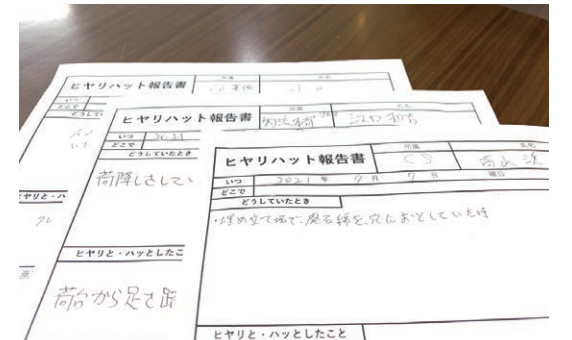


本社 応接室

1. ヒヤリハット活動

未然に事故を防止する活動として、収集運搬部門を中心に、運行や作業においてヒヤッとしたことやハッとしたことを書き留め共有する、ヒヤリハット活動を継続して実施しています。ヒヤリハット報告書は毎月集計を行い、特に重大と考えられる事案を選択し毎月の会議で共有と、どのようにしたらヒヤリハットを防ぐことができるかの対策検討を行っています。

みんなで様々な場面の「気づき」を共有し、安全意識の向上と対策の徹底を引き続き行っています。



2. 作業手順書の整備

当社では多種多様な収集運搬車両があり、車両の特徴をしっかりと抑えた上でお客様ごとに作業手順書を整理しております。2019年度は作業手順書全体の見直しを進めていきました。

労災が1件発生してしまいましたが、作業手順書をすぐに見直し、改善を行い、きちんと手順に沿った作業ができているかの点検を実施し、定着化をはかりました。また、いつでも確認できるようにスマートフォンで閲覧できる状態にしています。

2020年度は作業手順書の効率的運用の見直しを行い、作業の標準化を図っていきます。



3. コンプライアンスの遵守に向けて

適正な組織運営が社員をはじめお取引先様の安心にもつながると考え、コンプライアンスの遵守に向けた活動を行っています。

コンプライアンスとして大きく2つの規範遵守をとらえております。1つ目は法令等の組織運営に関わる関連法規の遵守です。年に1度の監査はもちろん、各部門において法令理解に向けた勉強会等を実施しています。2つ目は社内の規則やマニュアルなどの社内規範の遵守です。毎月の役員も参加する会議にて業務フローを基に遵守状況を確認しています。

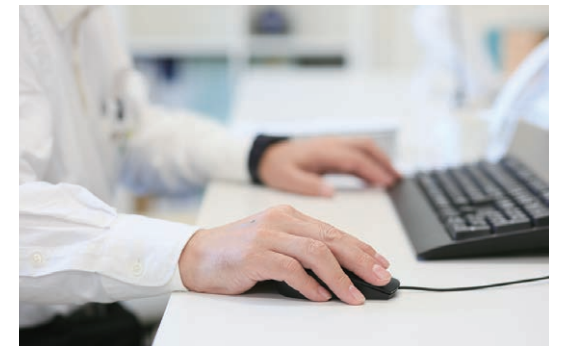
社内の規則やマニュアルは社会的規範を情報収集して随時見直しを行い、時代にあったコンプライアンス遵守を進めて参ります。



4. リモートワーク環境の整備

新型コロナウイルス感染症の発生前より、社員の働きやすい環境の形成に向けてリモートワーク環境の整備を進めて参りました。ファイルサーバーのクラウド化やデバイス環境の整備、リモートワーク実施に向けた各種ルールの策定を行い、緊急事態宣言発令時にも事務部門は翌日よりリモートワークを取り入れることができました。

現在でも業務効率を考えてリモートワークの実施を奨励しています。ニューノーマルの制度として運用定着に向けて改善を図っていきます。





重点項目2



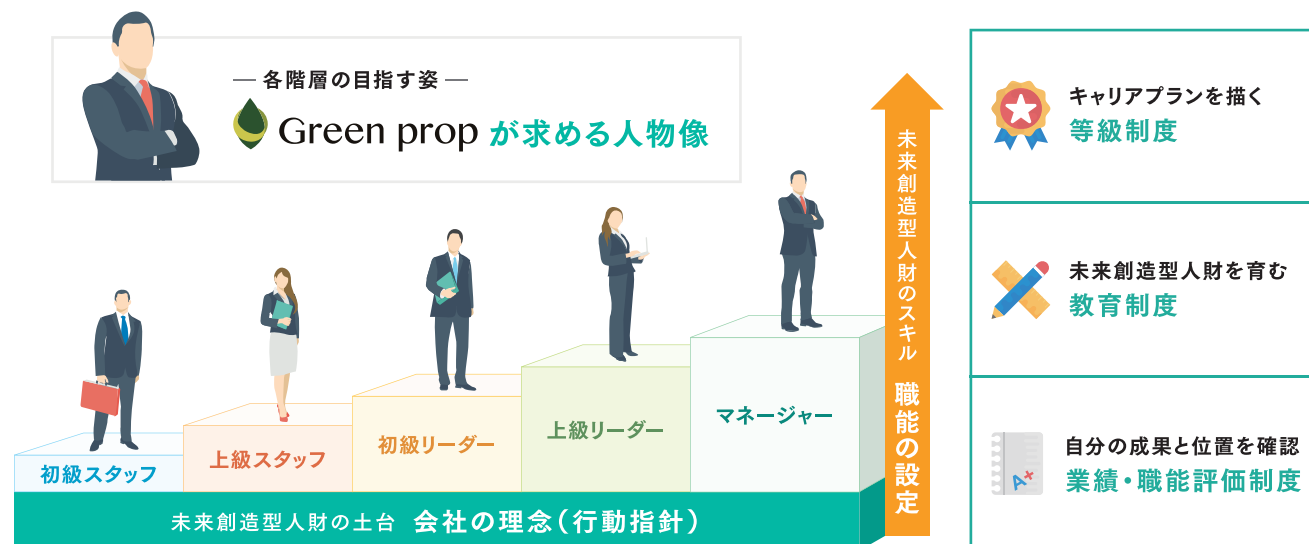
人を尊重し、人を愛し、人と共によりよい社会を形成できるよう
人材育成とダイバーシティ&インクルージョンを推進します。

1. 人事制度のリニューアル

当社の中期経営計画においても重点項目として取り組んできた人事制度のリニューアルが完了しました。当社の組織ポリシーに沿って策定した「未来創造型人事制度」は、当社の理念を土台とし、各階層の求める人財像を設定し、必要なスキルを職能項目として整理しました。社員が当社でのキャリアプランを描けるような等級制度、スキルを育んでいく教育制度、そして個々の成果と今の立ち位置を確認できる業績・職能評価制度を設けております。

2020年度はトライアル運用、2021年度からは本格運用し、自立型で社会で活躍できる人材育成を行っていきます。

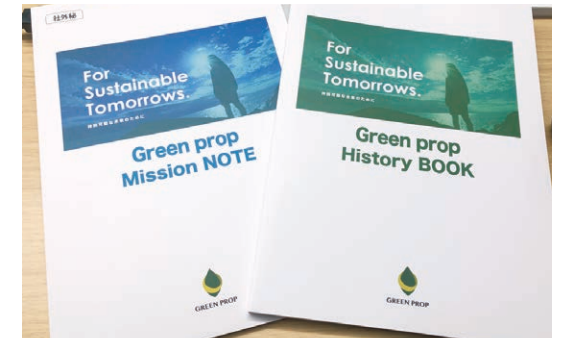
未来創造型人事制度



2. 歴史を整理した「History Book」を制作

2019年度に事業形態を整理しリスタートを切りましたが、当社のこれまでの歴史にこそ、大切にしている理念の背景が詰まっております。その歴史を知ることで理念浸透を図るために、「History Book」を制作しました。

経営層や長年従事している社員にエピソードを語っていただき、1冊の本としてまとめました。2020年度にはこのHistory Bookを活用した研鑽ツール「Mission Note」を活用して、理念の理解を深める勉強会も開催していきます。



3. ダイバーシティ&インクルージョン

障がい者支援施設からの製品調達



社会の多様な人財の活躍に貢献する活動の一つとして、福祉施設の製品・サービスを長年活用しております。

2019年度はお中元の製品に社会福祉法人 野の花学園様の商品を採用しました。障がいを持っている方が栽培した柑橘類の「きず」を使ったお酒で、お取引先様からも好評いただきました。

EG(エマジネティクス)の活用

2017年より、人の特性を理解しお互いの強みを尊重した組織運営を図るために、EGを導入しています。事務部門を中心にEGプロフィールを作成し、自分自身の特性理解をまず行い、個々の強みを生かしたチームビルディングに活用しています。お互いの特性を認め合い、円滑なコミュニケーションにつながっております。

② EG(エマジネティクス®)とは

脳科学をベースに統計学を駆使して作り上げられたプロファイリングツール。人の思考を4つの特性で、行動を3つの特性で表現することにより、自分や周りの人をよく理解し、その違いを受け入れ、尊敬することで、ダイバーシティ推進に活用できます。

4. CSR・環境教育の積極的实施

CSRや環境分野における社会全体の理解浸透に貢献していくために、様々な場面での講演等を行っています。

2019年度は、お客様や地域社会の皆さまに向けて、計8回の講演・講習にてお話しさせていただきました。当社のCSR取り組み事例や適正な廃棄物処理に向けた現況や制度をお話しさせていただき、受講者の方々の新しいアクションのきっかけになれるよう、引き続き積極的に行って参ります。



実績(一部)

● 北九州市「産業廃棄物処理業者向け人材育成セミナー」	サービス業としての人材育成に向けた当社事例発表
● 福岡市NPO・ボランティアセンター あすみん「NPOマネジメント講座」	企業と市民活動を進めていくためのCSR側面からのポイント講演
● 産業廃棄物処理業者様	安全とCSRに向けた勉強会
● プラント工事会社様	廃棄物処理の現況についての勉強会
● 製造業様他	電子マニフェスト導入講習



重点項目3

資源循環

限りある資源の調達から使用・廃棄までのライフサイクル視点で考え、環境負荷の少ない運営と資源循環の可能性を実現する循環型社会の形成を目指します。

1. エコアクション21による環境マネジメント

2019年度より当社の環境マネジメントシステムをエコアクション21に変更し、引き続き環境マネジメントを行っております。2021年度にはガイドラインの最新版への更新に向けて、新たな運用体制づくりを進めて参ります。



エコアクション21 対象範囲(認証・登録範囲)

対象事業所: 本社、物流本部
事業活動: 産業廃棄物収集運搬業、特別管理産業廃棄物収集運搬業、一般貨物自動車運送業、環境コンサルタント業



環境方針

基本理念

持続可能な未来のために、事業活動と密接に絡んだ環境影響の改善を推進する。

行動指針

1. 環境影響を管理するためのPDCAサイクルを確立・運用し、環境パフォーマンスの向上に向けて継続的な改善を図ります。
2. 環境関連法規の遵守とともにステークホルダーとの対話を推進していきます。
3. 省資源・省エネルギー化を図り、事業所における環境負荷低減に努めます。
4. 資源循環を当社の使命と捉え、ステークホルダーへ資源効率向上の促進を行います。
5. SDGs達成に向けて、特に環境・CSR分野におけるコミュニケーション活動を推進し、ステークホルダーと共に持続可能な未来環境の共創を目指します。

2019年4月1日
株式会社Green prop
代表取締役 川添 克子

2. 収集運搬車両運行の燃費向上に向けて

当社のCO₂排出量の起因として一番大きいのが、収集運搬車両の軽油使用に伴うものです。いかに燃費効率を上げるか、様々な策を講じています。

車両の日常点検を強化し車両への負荷低減に努めたり、ドライブレコーダーやデジタルタコグラフで運転の特徴を分析し、エコドライブに向けた改善を行っています。また、車両の購入基準に低燃費基準を設定し、性能のよい車両を優先しています。

日々エコドライブと随時車両更新に伴う性能向上の両輪で適正なエネルギー使用を図っていきます。



3. 一般廃棄物の削減に向けて

紙ごみの分別廃棄



本社と物流本部に関しては、廃棄する書類やシュレッターくず、段ボールなどの紙ごみを分別し、古紙処理会社にて廃棄していただいております。

各拠点にて古紙分別BOXを設置して啓発掲示をすることで分別運用が定着しています。

ノートPCデバイス支給による会議資料の削減



事務系部門の半数以上の社員は、業務で使用するデバイスをノートPCにしています。2019年9月の本社移転や物流本部開設に伴い、デスクトップPCを必要最小限にしました。データでの資料共有ができるようになり、紙使用量の削減につながっています。

4. 資源循環のご提案

当社にてサポートさせていただいている廃棄物処理については、まずリサイクルができないかと検討を行い、ご提案させていただいております。

今年度は当社が関わる全ての廃棄物処理について、リサイクル率の算定方法を整備する計画でしたが、完了できませんでした。引き続き次年度も継続してまいります。

また、同時進行でリサイクル可能な協力会社ネットワーク構築も行っており、新規の協力会社様ができました。算定方法の確立とリサイクルネットワークの強化を並行して行い、資源循環の幅を広げていきます。





重点項目4

パートナーシップ

すべての活動は様々なステークホルダーの皆様とのパートナーシップにより
実行できます。より強固なパートナーシップ構築を行いサステナブルな社会を目指します。

1. お客様とのコミュニケーション

お客様の環境・CSRに関する状況をお聞きし、的確な課題解決を目指していくために、当社独自のヒアリングシートを整理しました。訪問前、訪問時、訪問後と3つのフェーズで実行するポイントを整理しており、より充実したコミュニケーションがはかれるように活用しています。

訪問後には、お聞きした情報をもとに、毎週開催されている会議でどのようなご提案がベストかをディスカッションしています。「他のお客様も同じような悩みがあり一体的に解決できないか」「過去のこの経験を活かして企画できないか」など、一人ではなくみんなで考えていくことにより、提供価値の増幅に努めています。



実績：課題解決に向けた新サービス「小口回収」スタート



2. 協力会社様とのコミュニケーション

当社の廃棄物事業やCSR経営サポート事業は、協力会社様がいてこそ成り立っております。協力会社様にも定期的に訪問やオンライン面談等でコミュニケーションを図っています。

組織の状況や市場状況などを意見交換させていただき、より協力会社様の強みを理解できるように努めています。このコミュニケーションから新たな活動の連携も生まれています。

今後も定期コミュニケーションを欠かさず行い、信頼関係の構築に努めていきます。



3. 地域・社会とのコミュニケーション

2019年9月に移転した本社では、1Fにコミュニティスペースを設け、環境・CSRに関する書籍をおいて地域の皆様に開放することを予定しておりました。しかし、2020年2月頃より蔓延した新型コロナウイルスの影響により、来訪スタイルでのコミュニケーションが困難になりました。

そこで、強化しているのが非対面での情報発信です。当社Webサイトでは定期的にコラムを更新しており、廃棄物やCSRに関する情報を社員の経験を織り交ぜながら執筆しております。今後はメールマガジンなど新しいツールも検討し、広く地域や社会の皆様とコミュニケーションが図れるよう企画してまいります。



4. 社員とのコミュニケーション

経営計画の共有



当社のビジョンや目指す方向性を示した経営計画を毎年6月に「決起集会」を開催し社員と共有しています。また、4ヶ月ごとに計画に対する達成状況を共有し、更なる改善を図る「シーズン振返り会」も開催しています。

リーダーを中心に企画しており、忌憚ない意見交換を定期的に行うことでチームワークを高めています。

レクリエーションの開催



業務以外の活動からも社員間のコミュニケーションを図ることを目的に、定期的にレクリエーションを企画・開催しています。

2019年12月には本社で餅つきを行いました。社員のご家族も参加し、普段とは違う一面が垣間見え、会話に花が咲きました。

ENVIRONMENT DATA

環境データ

INPUT

エネルギー



電気

27,675kWh



軽油

464,045ℓ



ガソリン

11,614ℓ



水

208m³



GREEN PROP

- 廃棄物事業
- CSR経営サポート

廃棄物収集運搬量

77,019.44t

産業廃棄物

燃え殻	464.30 t
汚泥	1,581.80 t
廃油	63.18 t
廃酸	610.95 t
廃アルカリ	670.10 t
廃プラスチック類	890.53 t
紙くず	28.85 t
木くず	265.30 t
動植物性残さ	53.65 t
金属くず	589.98 t
ガラスくず等	615.26 t
鉱さい	0 t
がれき類	129.16 t
ばいじん	49,685.13 t
13号廃棄物	0 t
混合廃棄物	1,607.29 t

計 57,255.48 t

特別管理産業廃棄物

引火性廃油	42.53 t
引火性廃油(有害)	0 t
強酸	5.56 t
強酸(有害)	0 t
強アルカリ	0.07 t
強アルカリ(有害)	0 t
感染性廃棄物	127.89 t
廃石綿等	210.15 t
鉱さい(有害)	0 t
燃え殻(有害)	1.97 t
廃油(有害)	0 t
汚泥(有害)	0.18 t
廃酸(有害)	0 t
廃アルカリ(有害)	0 t
ばいじん(有害)	97.13 t

計 485.48 t

一般廃棄物

19,278.48 t

OUTPUT



CO₂排出量※

1,234.27 t-CO₂



一般廃棄物排出量

547.41kg

※エネルギー等起源のCO₂排出量を対象とし、「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」にて公表されている情報で算定しております。

Green prop メディア

当社の情報は様々な媒体で発信しております。皆様是非ご覧ください。

総合情報

Webサイト

会社概要や事業内容、CSR方針など、当社に関わる全ての情報と最新情報を更新しています。



環境・CSR情報

コラム

廃棄物やエネルギー、CSRやSDGsなど、環境・CSRに関する様々な情報を、Green propフィルターを通してコラムという形で発信しています。



CSR情報

Sustainable Report

CSR(企業の社会的責任)についての方針や計画、活動報告などをまとめたレポートです。



GREEN PROGRESS

Green prop最新情報

メールマガジン

GREEN PROGRESS

当社の出来事やコラムの更新、その他皆様へのお知らせなど、メールマガジンを配信しています。

配信登録はこちら

